

難聴について伝えよう！

園や学校などでは入園や入学前にお子さんの難聴や補聴機器について話し合う時間を作ってくださいことがあります。新年度にクラス替えや担任が変わると新しい担任の先生と話し合いこともあるかもしれません。園に向けた資料として「聴こえやすい環境づくり」がありますので、参考にしてみてください。さて、今回は、クラスのお友達や保護者の方々にどのようにお子さんの「難聴」について伝えればよいか、考えてみましょう。

1. 誰が主導で話すの？ 誰に向けて話すの？

- 「難聴について伝える」といってもそのスタイルはさまざまです。
 - ◇ 親子一緒の場で先生が主導で話す。
 - ◇ 親子一緒の場で親が主導で話す。
 - ◇ 保護者のみの場で先生が主導で話す。
 - ◇ 保護者のみの場で親が主導で話す。
 - ◇ 保育の場（保護者抜き）で先生が主導で話す。
 - ◇ 保育の場（保護者抜き）で親が主導で話す。
- まずは、園や担任の先生の意向があると思いますので、どのような形を望むか率直に園側に確かめてみましょう。
- 「前年にならって…」と思われるかもしれませんが、お子さんの年齢や担任の先生がかわると意向も変わるかもしれません。新しいクラスや先生と足並みと気持ちをそろえて取り組んでいくことがお子さんのプラスになると思いますので、まずは園側と話し合ってみましょう。



2. 自分のお子さんの前で話すべき？

- 園側が保護者のみの場を設けた場合や、自分のお子さんの同席ものぞまれない場合は、園の考えを尊重することも大切です。
- これは今後お子さん自身が向き合う「障害受容」とも関連してきます。いずれは、お子さん自身が自分の「難聴」について伝えること、自分の装着している「補聴機器」について説明していかねばなりません。その時にお子さんが選ぶことは自然と小さい時に自分の「難聴」や「補聴機器について」まわりの人に説明してくれていた親御さんやごく親しい大人の言動です。「いつかわが子

にもこんなふうに説明してもらいたいな」という気持ちで伝えれば、お子さんにも必ず親御さんの気持ちが届くはずです。もし、園側の意向でご自分のお子さんの前で話さない場合も、それとなく、「今日、〇〇組さんで人工内耳・補聴器（お耳）のお話ししておいたよ」と伝えてもよいかもしれません。

※就学後年齢が大きくなるにつれ、「友だちと同じがいい」「先生に頼みたくない」などの理由から FM に抵抗を示すお子さんもいます。そんな時は、無理強いせずに、FM を使わなくてもよい方法（席を前にしてもらおう）や本当に困ったときにどうすればよいか一緒に考えたり、親子で一度立ち止まることも大切です。「これは聞き逃したくない」「きちんと聞きたい」という気持ちを小さいうちから育てておけば、本当に必要なときは自分からつけ始めると思います。

3. どんなふうに伝えればいいの？

- 保護者の方々に伝える場合とお子さんに伝える場合とでは、説明時に選択することばが異なるかもしれませんが、どちらの場合も、マイナス点として伝えるのではなく、お互い気持ちよくうまくやっていくポイント（コツのようなもの）を伝えることが大切です。時には他のお子さんも経験しているであろうことを具体的に説明してあげることで理解につながりやすくなります。
それでは、いくつか具体的例を挙げてみましょう。
 - ◇ 「聴こえないから機械をつけている」→「人工内耳をつけると聴こえるよ」
 - ◇ 「まわりがうるさいと聴こえない」→「うるさい時は近くに来てくれると助かるよ」「肩をたたいて呼んでくれるとすぐに気づけるよ」
 - ◇ 「みんなもまわりがうるさかったり、遠くからお話されたりするとよく聞こえないことがあるでしょ？でも、近くまできてお話してくれた方がよく聞こえるし、分かるでしょ。」
- 理解者や対等の仲間を増やしていきましょう。もし前年度によき理解者、お子さんの心強い味方がいたのであれば、「去年、〇〇してくれて助かったよ。今年もよろしくね」などお友だちには、具体的な心配りの方法をさりげなく示し、そんな手助けがあると嬉しいということを伝え続けていくのもインテ（統合）の場での大人（先生や親御さん）の大きな役割です。
- 周囲のお子さんにもご自分のお子さんにも 1 つの「個性」としてうまく周囲に伝えていき、「いろんな子がいるんだよ」ということ「補聴器や人工内耳をつけていても同じ仲間なんだよ」ということを繰り返し伝えていってあげたいですね。

